

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価(案)

1 めざす学校像

教職員は「教学相長」の創立時精神を踏まえ、「チーム布施高」として、その資質・能力の向上を図り、教育内容の充実と環境整備につとめ、

1. 基礎学力・語学力を確実に身につけ、思考力・判断力・表現力・行動力を備えた生徒の育成に努める。

2. 自他を認め、まごころと思いやりを持つ心身ともに健全で規律ある生徒の育成に努める。

3. グローバル社会を生き抜くため、個を磨き、自己成長を習慣化できる人間の育成をめざす。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成

(1) 授業力向上

ア 授業アンケートの活用や公開授業・研究授業の推進を通じ、個々の教員の授業の充実を図り、学校教育自己診断における「学力のつく授業が多い」の項目で、肯定的回答 20%増(H23 年度は 55%)を達成する。

イ 家庭学習課題(宿題)の充実、新入生全員を対象にしたスプリング合宿(勉強合宿)、自習室の整備等によって、家庭学習時間 20%増をめざす。特に、家庭学習習慣の不十分な生徒に対する、将来の目標づくり等のキャリア教育を推進する。

(2) 教育の情報化の推進

ウ ICTを活用する授業を推進し、「わかる授業、手ごたえのある授業」を展開する。

エ 生徒に関する諸データの集約・活用に向けたシステムを構築し、校内 LAN の活用による校務の情報化・効率化を図る。情報専任者の設置から、情報係の分掌化を促進する。

(3) プロセスアプローチの導入

オ 教科毎にインプットとアウトプットを定義し、運用方法(手順・技法)と評価指標(監視測定項目と目標値)を明確にする。

2. 夢・志のはぐくみ

(1) 系統的なキャリア教育による志や目的意識の醸成

ア 「志学」の充実を図り、FROM NOW(総合的な学習の時間)や LHR・学校行事を点検し、従来の取組みを位置づけしなおす。

イ 各学年数時間程度の新しい学習プログラムを開発し、布施高版市民性教育(キャリア教育・「志学」)を確立する。

(2) 進路保障

ウ 普通科専門コースを導入し、将来生徒たちがなりたい自分を実現する選択の幅を広げる。

エ 平成 2 8 年度国公立合格者、関関同立合格者を平成 2 5 年度比倍増する。

3. 生きる力と豊かな心のはぐくみ

(1) 自己を厳しく律する力と自尊心の育成

ア 挨拶指導・遅刻指導の充実等により、年間総遅刻数 25%減を実現する。

イ 教育相談委員会の活性化、各学年や関係委員会との連携による個別生徒支援の充実を図り、学校教育自己診断における「親身に相談に応じてくれる先生が多い」の肯定的回答 70%以上を達成する。

ウ 充実した伝統的自治会行事の継続、部活動のベスト記録・成績の更新、菜の花忌運動等の地域貢献を通じて自主・自立の精神、社会貢献の姿勢を育む。

(2) 地域連携強化による地域に大切にされる学校づくり

エ 家庭との連携強化、PTA活動の充実を図り、保護者授業参観参加者の倍増を実現するとともに、新たに導入したワークショップ形式の保護者と教職員の意見交換会の継続・充実に努める。

オ 近畿大学をはじめ他大学との連携による出前講義・体験講義の充実を図る。また、司馬遼太郎記念館との連携の充実を図り、志学に位置付けた「司馬遼太郎学習プログラム」「菜の花忌運動」を展開する。

4. 機能的な組織づくり

(1) 若手教員の校内 O J T の充実

(2) 運営委員等のミドルリーダーの育成

(3) 学校改革委員会の見直し

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見
□授業力 ○学力のつく授業が多い 肯定的回答 (H 2 5 生徒 56%、保護者 63%、教員 86%) (H 2 4 生徒 50%、保護者 62%、教員 78%) ○考え方を工夫している教員が多い 肯定的回答 (H 2 5 生徒 55%、保護者 57%、教員 84%) (H 2 4 生徒 49%、保護者 55%、教員 78%) ○ICT機器が各教科で活用されている 肯定的回答 (H 2 5 生徒 36%、保護者 54%、教員 39%) (H 2 4 アンケートなし) 教員は学力のつく授業や考え方を工夫していると自らを評価しているが生徒の評価は高くない。ただ前年よりは生徒の肯定的回答が増えている。ICT機器を使って生徒の興味、関心を引く授業が不足しており、来年度は今年度整備した、iPad やプロジェクターの活用を目指す。 □国際理解教育 ○国際理解教育に力を入れている 肯定的回答 (H 2 5 年 生徒 28%、保護者 43%、教員 19%) (H 2 4 年 生徒 24%、保護者 36%、教員 20%) 国際理解教育については、生徒・教員とも圧倒的に不足していると感じている。国際理解教育とは？基本的なところを教員がおさえたうえで、その	第一回学校協議会 (平成 25 年 6 月 14 日) 学校改革に向けて協議 ・校長の説明で、学校の現状、課題がよく理解できた。また方針も理解できた。 ・昔の布施高校は8割が浪人したが、関関同立は多かった。塾にもだれも行かなかった。進学数の増加に加え、人間教育もよりしく願いたい。 →文武両道の“武”は、“文”を支えるもの。生きるための知識をしっかりと身につけさせたい。FN 活用で、ゲストスピーカーの講演など先人の話を聞き、将来について考える場もしっかり作っていきたい。 ・大学生では進路変更(他大学受け直し等)する学生が増えている。目標もなく入学しているのも原因の一つ。まず、目標を持たせる取組みをやっていただきたい。 ・伸びる子を伸ばすという考え方は大切。そのためには授業を変えることが必要。 ・入学時より全体に成績が落ちているのは、周囲(先輩)の影響や学校の雰囲気が大きいのではないか。この空気をどう変えるのかが大切。 第二回学校協議会 (平成 25 年 11 月 8 日) 授業力向上と補講習等について協議 ・授業力向上に向けたプロセアプローチでは、教員の個性も活かす方法を考えるべき。 ・土曜日の補講習充実のための教員確保に向けた取り組み(例えばシフト勤務)が必要。 ・大学ではセンター利用で入学した学生がS P I も高得点を取り、就職も決まりやすい傾

推進を図る必要がある。当校の大きな課題である。 □それ以外 ○布施高校にくるのが楽しい 肯定的回答（H 2 5 年 生徒 80％、保護者 94％、教員 97％） （H 2 4 年 生徒 85％、保護者 90％、教員 99％） ○学校行事に積極的に参加している（ようだ） 肯定的回答（H 2 5 年 生徒 83％、保護者 91％、教員 81％） （H 2 4 年 生徒 80％、保護者 91％、教員 93％） ○部活動は活発である 肯定的回答（H 2 5 年 生徒 67％、保護者 93％、教員 82％） （H 2 4 年 生徒 67％、保護者 73％、教員 90％） 「布施高校にくるのが楽しい」や「学校行事に積極的に参加している」は生徒、保護者ともに 8 割の肯定的回答であるにも関わらず、生徒の「部活動は活発である」の肯定的回答は 7 割を切っている。部活動活性化について議論が必要。アルバイトの実態調査も必要。	向がある。広い知識が学べるよう工夫を重ねてほしい。 ・修学旅行先からのブログ等、保護者に対し細かな報告は必要ないのではないか。 第三回学校協議会（平成 26 年 1 月 29 日） 前半で授業見学を実施し、後半で「学校経営計画」「学校教育自己診断」進捗と結果報告 ・国語の授業見学で感じたが、できる生徒には退屈でこれでは生徒が寝てしまうのも理解できる。一律でやるのはどちらにとっても退屈。アドバンストの発想はよいかもしれない。 ・家庭学習がしにくい生徒のために、自習室や土曜講習は有効である。地域や P T A の援助も得て、それぞれの生徒を伸ばしてほしい。 ・先生の相互授業見学を増やし、「いい授業」の研究とともに「悪い授業」の研究も有効ではないか。授業アンケートは実施していますか？ →生徒の授業アンケートは年 2 回実施。校長と教頭は全教員の授業見学をしている。 ・日本の学校は、「学習」「躰」「クラブ活動」の三つ、ヨーロッパでは「躰」は協会、「クラブ活動」は社会活動で、学校が果たす役割が日本と異なるという意見がある。 ・教育環境の整備に努めてほしい。同窓会や P T A も協力する。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確 かな 学 力 の 育 成	(1) 授業力向上・学力保障 ア○教科毎にプロセスのタートル図を完成させる。 ○7月と12月実施の授業アンケートを活用し、授業改善 ○7月のアンケート結果を基に各教科1名研究授業 ○府教育センターのパッケージ研修の活用 イ○全校生の家庭学習実態を、定期的に全校調査 ○学習合宿、週末課題、自習専用室活用等により、生徒の自学・自習力を高める (2) 教育の情報化の推進 ウ○H25年度学校経営推進費で展開教室へのICT環境整備 ○ICTを有効活用する授業推進 エ○諸データ集約・活用のため校内LANシステム確立 (3) 授業形態等の検討 オ○10年間実施の45分7限授業を検証し、50分6限に7限を重ねる授業形態も検討 (4) 学習到達度の検証 カ○新入生の到達度調査と対応	ア○担当首席・教務・進路・教科からなるPTで学年教科毎のタートル図に基づくプロセスアプローチの実践。 ○個人別分析結果を、個々人が真摯・謙虚に受け止め、自身の授業改善に努める。 ○各教科年間1回以上研究授業実施。見学後、「改善への一言」(統一用紙作成))を記入。 ○参加しやすい時間帯を設定。 ○初任者のみならず全教員の授業改善への契機とする。 イ○従来は学力生活実態調査で4月時点の家庭学習時間を把握。7月・12月にも調査を行い、実態に即し対応を行う。 ○H24年度に初めて実施の学習合宿定着と内容充実を図る。また、自習専用室利用の広報活動と専用室管理の教員体制整備。 ○予習・復習不可欠な授業展開の工夫。 ウ○展開教室(2教室)へのICT整備と並行して、情報部を中心に各教科への授業展開に向けた研修を実施する。 エ○校務の情報化・効率化を図るため、H25年度より情報部として独立分掌で運用。 オ○定時制併置校として単位数の確保と部活動時間を踏まえ、より良い学習形態を構築。そのためカリキュラム委員会や将来委員会で意見集約。 カ○前期・後期入学者選抜で入学した生徒の到達度を、定期考査や校内模試等で比較し、調査・研究する。その過程のなかで、現在、1年生で実施している国語と英語の少人数授業クラスを、機械的に半数ずつの編成とするのではなく、年度途中より、到達度別のクラス編成とする。	ア○学校教育自己診断で「学力のつく授業」について、全体の平均10%増達成めざす。 ○授業アンケートで肯定的回答が、すべての科目において担当クラスの平均65%以上。 ○教員全員が年間1回以上の授業見学と助言を行う。 ○パッケージ研修が授業改善に役立ったか否か、教員へのアンケートで検証。 イ○4月と12月の家庭学習時間を比較。1年10%2年20%3年30%増。 ウ○年間でICT活用授業した教員、50%以上となるよう取り組む。 エ○どれだけの範囲で、円滑に活用できたかの検証。 オ○提言書作成。 カ○調査校内LANシステムを活用して集約。年度末の、到達度別クラス編成に対する、生徒へのアンケートで検証。	平均5%Up(○)に留まる。依然教員の回答との間に30%程度の開きあり。 約4割の教員で実施(○) 1月29日に研究授業を実施全教員参加の事前研修では当校の授業課題を論議ICT活用と生徒参加の研究授業後の協議では生徒がじっくり考えて活動する場面を授業に取り入れていくことを確認(○) ・一年生、二年生は4月時点で平日25分程度が60分～70分に。三年生は同じく25分が180分まで伸びた。(◎)ただ、春休みの学習時間が課題。次年度要対策 学習合宿アンケートは英、数、国の実施教科で85.6%に達した。(◎) 自習室利用者のべ人数2500人 3年生サテラインゼミ導入 ICT活用教員約4割(○) エ：情報部の分掌化は実施。また各分掌の情報統合も行い効率化は進んだ(◎) オ：来年度より50分授業、週32時間に変更決定(◎) カ：1年生前期入学の中間、期末における標準偏差は後期入学に比して小さい。夏休み明けから国語と英語は到達度別クラス編成を実施。(◎)
	(1) キャリア教育を通じ、目的意識を高める。 ア「志学」の充実 イ学年に応じた布施高版市民性教育 (2) 進路保障 ウ○コース設定PTの発足と活動 ○保護者に対しても、早い段階から時機に応じた進路情報紹介 ○著しく増加傾向にある医療系大学等への進路保障	ア○FFROM NOW(総合的な学習の時間)を活用し、「志学」の充実とキャリア教育を推進する。特に、早期に、就きたい分野や職についての、目標をもたせる。 ○各分野で活躍する卒業生を活用し、進路を身近に考えさせる。 ○調べ学習スピーチを通じて、表現力などを養う。 イ○司馬遼太郎記念館等の地域の教育資源を積極的に活用する。 ウ○具体コースのカリキュラム編成 ○最新の進路状況や変化等を1年生の段階から早めに情報提供し、生徒と共有する情報の基に家庭での話し合い促進。 ○1年次からの登録・指導と理数科目の講習や看護体験実施。	ア○学校教育自己診断で関連項目の肯定的回答を80%にする。 イ○菜の花忌運動に参加する生徒の延べ数を20%増。 ウ○私立大学延べ合格率20%以上増。また、センター試験の出願者も20%増。 ○保護者向け進路説明会時のアンケートでの肯定的回答75%以上。 ○受験結果・進学状況。	ア肯定的回答80%(◎) イ全自治会役員と一二年生各クラス2～3名が参加し20%以上増加(◎) ウ・私立大学述べ合格率29%Down(△) センター出願者前年より減少H25年89人(H24年101人)(△) ・コース制プロジェクトチームで具体カリキュラム編成完了。H26二年生より導入決定(◎) ・進路説明参加保護者の大半は肯定的(◎)。今後は参加者をいかに増やすかが課題。

府立布施高等学校				
生きる力と豊かな心のはぐくみ	(1)自己を律する力と自尊心の育成 ア○挨拶指導や遅刻指導による望ましい生活習慣の定着 イ○障がいがある生徒との共生の意識高める。 ○人権を尊重する体制づくり ウ○自治会行事や部活動の充実、特に文化部の活性化 ○地域連携活動等を通じて、社会貢献の姿勢をはぐくむ。 (2)地域連携強化 エ○家庭との連携の強化、「布施高応援団」としてPTA活動の充実を図る。 オ○大学等との連携を促進 カ○申請中のユネスコスクール認可後には、地域連携を中心に、幅広い奉仕活動を展開する。 (3)キ○読書習慣の醸成	ア○挨拶や遅刻について、集会や各HRでの啓発活動を粘り強く行う。 ○生徒からポスターや川柳も募集し、生徒自らの意識向上も促進する。 ○教員研修会のワークショップで7～8人ずつ一組となり改善方法を協議。 イ○スクールカウンセラーや支援教育コーディネーターを中心に教育相談委員会を定例化。課題を抱えた生徒の課題の情報共有と迅速な対応に努める。 ○校内外の関係機関との連携による個別支援計画の作成。 ○発達障がいをはじめ生徒支援のための専門的知識の深化のための研修会開催。 ○体罰・いじめに関する職員研修を年1回以上行う。 ウ○活躍の場・機会を広げる。 ○菜の花忌運動を、全校的な取り組みとし、地域貢献の意識を高める。菜の花委員の継続。 エ○HP充実やあらゆるPTA行事を通じて、保護者に対して学校の取り組みを発信。 オ○近隣の大学以外にも複数の大学と、出前授業や学生インターンシップ等の目的に応じた連携を行う。 カ○10名以上の生徒・教員が府内のユネスコスクールを訪問し、先進例学ぶ。また、ユネスコスクール共同企画にも参画。 キ○読書マラソンや生徒による選書活動推進により図書貸し出し増加させる	ア○年間総遅刻数 15%減。 イ○学校教育自己診断「親身に相談に応じてくれる先生がいる」肯定的回答 65%以上。 ○生徒へのアンケート ウ○現在同好会として活動中の部への昇格を2クラブ以上。また、対外表彰等で検証。 エ○保護者対象の授業参観参加者の10%増。 オ○5校以上の大学等と多様な連携。 カ○共同企画への参加 キ○年間の図書貸し出し冊数の10%増加。	ア当初目標に達していない (△)次年度は仕掛けが必要 H25年 5032名 H24年 5346名 イ肯定的回答 55%で目標に到達せず(△) ウ書道同好会が部に昇格、当該クラブが展示会で表彰。他のクラブで近畿大会、全国大会出場(◎) エ授業参観への保護者参加は向上せず。(△)来年度は仕掛けが必要 オ2大学との連携にとどまった(△) カ ユネスコスクールについては認可待ち キ H25年12月末時点の図書貸し出しは1982件(前年同時期：2171件)で目標届かず。(△)来年度は今年以上の仕掛けが必要
	(1)ア○若手教員校内OJTの充実 (2)イ○運営委員等ミドルリーダーの育成 ○将来委員会の役割を明確にし、実効性ある組織とする。 (3)ウ○学区制撤廃への移行にともない広報活動充実 (4)エ○組織的・継続的な防災訓練の企画・運営	ア○30歳代までの教員が全体の1割の中、管理職・首席・指導教諭で年間5回以上、課題を課しつつ行う。このフォローアップ研修と並行して、府教育センターのパッケージ研修も活用。 イ○様々な場面で経営参画の機会を作り、前向きなボトムアップができる集団とする。 ○組織の役割を明確にし、前向きな検討を形にしていく委員会とする。 ウ○学校HPや学校説明会や学校案内の充実、中学校訪問や教育産業への広報活動の再構築。 エ○従来の教頭担当から、保健部の担当とし、訓練内容を組織的に検討する。	ア○研修参加者のアンケート結果。 イ○学校教育自己診断の関連項目、肯定的回答 10%増。 ○新しい企画の実践 ○円滑な校内運営 ウ○中学校訪問 10%増。教育産業訪問数 20件以上。 エ○学校教育自己診断の関連項目、肯定的回答 10%増。	ア若手教員のフォローアップ研修年五回実施。パッケージ研修は進行中。(◎) イ首席、教頭が年度途中で病気休職となり、教員の意見をタイムリーに吸い上げられなかった(△) コース制検討委員会の立ち上げと新1、2年生のカリキュラム見直しにつなげた。(◎) 中学校訪問は予定数を上回った。教育産業については前年なみ。(◎) 保健部に担当を変更。生徒意識は7%Up(◎)